

## 大畜帯と機構圏勝十

## ナガイモ酒開発へ

産学官連携事業。ペットフード試作も

十勝畜産産物の付加価値向上を目指す「都市エリア産学官連携促進事業」で、財団法人十勝圏振興機構と帯広畜産大などの研究グループは本年度、ナガイモ酒のほか、ジャガイモタンパク質の粉末を使ったペットフードの試作品開発に取り組む。

(中野訓)

同事業は二〇〇五―〇七年度の三年間、文部科学省から年間一億円の補助を受け、高付加価値商品の開発を目指した研究に当たる。

二年目の本年度に取り

組むナガイモ酒は、これまでナガイモ発泡酒の開発に携わってきた東京農大生物産学部(網走市)の永島俊夫教授の協力を得て、新しい種類の酒の開発を目指す。

ナガイモは昨年度の研究で、腸内環境を改善するなど健康への効果が実証された。同事業の佐山

「ナガイモは昨年度の研究で、腸内環境を改善するなど健康への効果が実証された。同事業の佐山」また、ジャガイモタンパク質も昨年度の動物実験で、タンパク質の分解

した酒についても(生活過程でできるアミノ酸結

合物質ペプチドが、動脈硬化を引き起こす悪玉コレステロールを減らす効果があることが確認された。

本年度実施するペットフードの試作品開発は、近年、犬や猫などペットの食事にも飼い主の関心が高まっていることに着目。十勝のでんぷん工場から出る廃液の新しい利用法を探る。

同事業では本年度、これらのほかにもソバのスプラウト(芽)を使った「そぼろやし」製品と、十勝オリシナルのナチュラルチーズの開発などを行う。